

### 地域づくり委員会／第5回中国地域スマート農業促進交流会

3月17日(月) スマート農業技術の社会実装による農業現場の課題解決を目指して設立された「中国地域スマート農業促進交流会」(以下、交流会)の第5回会合がオンラインにて開催されました。ここでは2名のご講演の概要について紹介します。

#### 「加工業務用キャベツ・タマネギの大規模生産体系について」

有限会社エーアンドエス 栽培・品質管理 中川 ほのか 氏



講演をされる中川氏



有限会社エーアンドエスは、「輸入野菜と競争できる国産野菜の生産」を目指し、岡山県笠岡市の干拓地において約145ヘクタールの広大な農地でキャベツ・タマネギの生産を手掛けています。

生産の効率化・省力化を図るため、底面かん水育苗システム、GPS直進機能トラクター、防除用ドローン、自動収穫機などを活用し、スマート農業の一貫体制を構築。また、加工過程で発生する残渣を肥料として活用することで、循環型農業を実践しています。

また、農場内に加工工場を併設し、「芯抜きキャベツ」や「剥きタマネギ」の生産を行うことで農産品に付加価値をつけ、JA経由の販売に加え、独自のルートを確認することで幅広い流通網を構築し、より安定した収益を生み出しています。

こうした先進的な事例をご紹介いただき、持続可能な農業の発展に向けた貴重な取り組みを知る機会となりました。

#### 「スマート農業に関する岡山拠点の取り組み」

岡山大学大学院 環境生命自然科学学域 教授 安場 健一郎 氏



講演をされる安場教授



安場教授の講演では、①海外への施設園芸フォーマットの展開、②農機メーカー間での施設園芸情報の標準化、③岡山大学でのスマート農業の研究事例について語られました。

①については、ベトナムの農業発展に貢献するため、現地の施設園芸農場に対し日本のメーカーや農研機構と連携のうえ生育・収量を予測・産出するツールを提供したり、現地の環境に合った栽培モデルの構築に取り組まれておられます。

②については、栽培管理のさらなる精度向上のため、国内農機メーカーの垣根を越えて、環境データの統一と標準化(異なるシステム間でのデータ共有)の必要性を訴えられました。

③については、岡山大学のスマート農業の研究事例として、イチゴのドローン受粉、トマトの着果促進処理、除草ロボット等の活用事例を紹介いただきました。

こうした先進的な事例をご紹介いただき、農業技術の発展とその可能性について深く考える機会となりました。

#### 【第6回中国地域スマート農業促進交流会のご案内】

スマート農業に限らず幅広く農業に興味をお持ちの方は、本交流会へのご参加をお待ちしております。

ご希望のある方は、地域づくり委員会(担当:松本・小迫)までご連絡ください。

(ご連絡先) TEL: 082-548-8519

MAIL: zh-matsu@pnet.gr.energia.co.jp

(担当:松本)